

事務事業名	コード1	38100	中学校教育振興費	事業種別	<input type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画	課	学校教育課		
	コード2		学校図書館司書の配置		<input type="checkbox"/> 新市建設計画	所属班	指導班		
施策体系	施策	11	学校教育の充実	事業種別	<input type="checkbox"/> 総合戦略	電話番号	55-5726	内線	268
	施策の展開	21	教育支援体制の充実		<input type="checkbox"/> 復興計画	予算科目	会計 10 3 2		
				事業種別	<input type="checkbox"/> 定住自立圏構想	根拠法令	・改正学校図書館法(H26.6.27)		
					<input type="checkbox"/> 行政改革アクションプラン		・子どもの読書活動の推進に関する法律(H13.12)		
				<input checked="" type="checkbox"/> 主要事業	・学校図書館図書整備5か年計画				
				<input type="checkbox"/> 簡易評価					

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 25 年度～ <input type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	●「学校図書館司書の配置」→学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各中学校に配置する。学校図書館の環境を整え、市内中学校生徒が図書に触れ合う機会を充実させる。 ●平成27年度からは毎週1日各校に司書が巡回。 【学校図書館司書の主な業務】学校図書館の環境整備(掲示物の作成、季節に合わせた書籍コーナーの設置、図書室への関心を高める仕組み(図書室外含む)、図書便りの作成等)、蔵書管理、新書購入時の助言、図書廃棄時の助言、生徒に対する図書貸し借り業務、授業の中で扱う書籍の収集、準備(市立図書館との連絡・調整含む)、生徒に対する本のアドバイス・レファレンス、読み聞かせ、ブックトーク(数冊の本を同時紹介) 【業務の流れ】 学校図書館司書を募集・採用→市内各中学校に配置→巡回計画を立て、計画的に市内各中学校を巡回(・教職員や市図書館と連携・協力し、学校図書館の環境整備や、生徒への読書指導を行う)→市内全体の読書活動の推進に努める→年3回の配置に対するアンケート調査を実施→来年度に向けて改善点を協議

(2) トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績) 単位:千円		単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)	
1. 労災保険料	366	千円		335	366	389	
2. 臨時雇賃金	1,365	千円		2,153	1,365	2,350	
3. 普通旅費	2	千円		0	2	3	
4. 消耗品費	0	千円		0	0	5	
② 特定財源の内訳(26年度の実績) 単位:千円		事業費計(A)					
1. 国庫支出金	0	千円	0	2,488	1,733	2,747	
2. 都道府県支出金	0	千円					
3. 地方債	0	千円					
4. その他	0	千円					
前年度比増減理由:		財源					
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績) 単位:時間		1. 国庫支出金	千円	0	2,488	1,733	2,747
・学校図書館司書募集、採用 3		2. 都道府県支出金	千円				
・巡回計画作成 18		3. 地方債	千円				
・月末に給与支払のための出勤簿整理等事務処理 12		4. その他	千円				
・業務に関する指導・助言 12		5. 一般財源	千円	0	2,488	1,733	2,747
		人件費	人	0.03	0.02	0.02	
		延べ業務時間	時間	60	45	45	
		人件費計(B)	千円	0	228	171	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,716	1,904	
						2,918	

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) 学校図書館司書を1名採用し、市内中学校4校を巡回。学校図書館の環境整備と生徒の読書指導を実施。配置に対する年3回のアンケート調査を実施した。 27年度計画(27年度に計画している主な活動) 学校図書館司書を1名採用し、市内中学校5校を巡回。学校図書館の環境整備と生徒の読書指導を実施。配置に対する年2回のアンケート調査を実施予定。	ア 学校図書館司書一人の担当校数 イ 1校当たりの年間巡回日数	校	—	4	4	5
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	・学校図書館施設、図書 ・市内中学校生徒	ア 生徒数	人	—	1,823	1,843	1,805
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	・学校図書館施設が利用しやすくなる。中学生の心身の発達に合わせたコーナー(思春期特有の悩み等)を作成することで、生徒が積極的に来館する環境に近づく。 ・「図書便り」を発行して広報活動をし、図書委員と協力して作業を行ったりすることで、学校図書館司書と生徒の本を介した交流が生まれ、市内中学校生徒等が、読書の楽しさや大切さを理解する。	ア 年度末アンケート調査での肯定的評価の割合(%) () イ 学校図書館司書が作成する「図書便り」の1校当たりの発行枚数(年間) ()	%	—	89.0	100.0	100.0
上位目的	④ 上位成果指標名(考え方)	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)
	生徒が読書好きになり、確かな学力等を身につけることにより、いきいきとした学校生活の創造に寄与する。	ア 「読書が好き」と答えた生徒数の割合(%) (全国学力・学習状況調査結果[対象:中学校3年生])	%	—	75.7	72.8	80.0

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
国では、平成24年度から学校司書の配置が進むよう、単年度約150億円の地方財政措置(1週当たり30時間の職員をおおむね2校に1人配置することが可能な規模の措置)をとった。それをきっかけに、旭市でも平成24年度に募集をし、平成25年度から1人体制で開始した。	平成26年6月27日に、学校図書館の職務に専ら従事する職員を「学校司書」と位置付けて各学校に配置するよう求めた「学校図書館法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行された。これにより、「学校司書」が初めて法令に位置付けられた。	生徒から「図書館司書さんと本のことを相談できてよかった。もっと学校に来てほしい。」という意見があった。教職員からは、学校図書館司書配置について、「効果がある。」という意見があった(100%)。また「巡回日数を増やしてほしい。巡回日(曜日)を固定化してほしい。」といった要望があった。

事務事業名	中学校教育振興費 学校図書館司書の配置	課名	学校教育課	班名	指導班
-------	------------------------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ この事務事業の目的は市の施策体系に結びつかず、意図することが上位目的に結びついているか？	学校図書館司書が市内各中学校の図書館の環境整備や生徒への読書指導を実施することにより、生徒が図書と触れ合う機会が充実し、読書好きな生徒が増えていく。これにより、学力向上と、いきいきとした学校生活の創造が図られる。
	② 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	学校図書館の環境を充実させることで生徒が利用しやすくなり、読書の楽しさや大切さを理解できると考えるから。
	③ 行政関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	「学校図書館司書の配置」については、「改正学校図書館法 第六条」に記されており、法令上の努力義務があることから、市が実施すべきである。また、学校図書館司書として直接生徒と関わり合う業務であることから、確かな人材を確保すべきであるから。
有効性 評価	④ 成果の現状水準	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	現時点で近隣市では、学校図書館司書を採用している市はない。しかし、国が示した配置水準に達していない。また、全国学力・学習状況調査において「学校図書館や地域の図書館に行く生徒の割合」は学力と関連する傾向が見られるが、週に1回以上行く割合が4.7%と全国平均(8.0%)より低い。更に読書以外の生徒の相談や心の居場所としての機能も果たしているが、学校図書館司書巡回日以外は閉鎖している学校が多く、見直し余地がある。
	⑤ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】↷ 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	平成25年度からの事業で、学校現場も、学校図書館司書が巡回することに慣れ、教職員や市図書館との連携も、より図れるようになってきている。巡回日数を増やせば、学校図書館の環境整備がより進み、生徒との本を介しての触れ合う時間も増加するため、その効果も上がっていくと考えるから。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (1) 事務事業名：(学校図書購入事務、図書館運営事業) <input type="checkbox"/> 統廃合ができる ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 連携ができる ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1) 具体的にどのような事務事業か？ (2) 類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	学校図書購入事務と連携して事業を実施しているが、学校図書館図書標準で定められている学校図書館の蔵書水準達成率は低い(旭市20%、全国平均52.3%)。また、市図書館司書に学校図書館司書のレクチャーを依頼するなどの連携は既に行っているが、市図書館司書も不足しており現状以上の連携を進めることは難しい。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	平成25・26年度と、学校図書館司書1名で巡回してきた。平成27年度は、学校図書館司書全体が3名から4名に増えたので、1校での勤務トータル時間や生徒一人一人との触れ合いの時間が増加していくと考えられる。より高い効果を求めるには、更に学校図書館司書の採用を増やしていく方向が最善と考えられるので、削減は難しい。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	現在は主査(指導主事)一人で行っている。年度当初の巡回計画作成等、各学校と連絡調整が必要なことが多いので、削減は難しいと考えられるため。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	公教育という面からも、公平・公正は、絶対条件である。平成26年度は、学校図書館司書が市内4校を巡回していたので、見直しの余地があった。なお、平成27年度は、5校全校に週に1回という同じ回数で巡回できているが、「授業で使用したい書籍の情報がいっつもほしい」という生徒・教員のニーズには週に1回では十分に答えられていない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)	
① 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	本事業は、学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各中学校に配置し、学校図書館の環境を整え、市内中学校生徒が図書に触れ合う機会を充実させることを主な目的として実施している。平成27年度には3年目を迎え、事業として定着しつつある。更なる効果を目指して、増員等の検討の余地があると考えられる。	
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
④ 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)		※2~3年後を目処にした方向性																						
<input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善による成果向上 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による事業費削減 <input checked="" type="checkbox"/> 受益機会の適正化 <input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携(関連事業：) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化	(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
						コスト																		
				削減	維持	増加																		
成果	向上			○																				
	維持																							
	低下																							
(2) 改革改善案について		※いつまでに、なにを、どうするのか？																						
いつまでに	いつまでに	なにを、どうするのか？																						
① 平成30年度まで	① 学校図書館司書を増員し、生徒が本が読みたいときや、学校図書館に心の居場所を求めたときに、いつでも学校図書館司書がいて、生徒一人一人にアドバイスができる環境をつくるために、徐々に2校に1名程度の配置を目指す。																							
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																								
①：「広報あさひ」に募集記事を掲載予定。「図書館司書」有資格者という条件を満たした新規の応募者が集まるかが課題であるが、26、27年度の実績では募集人員以上の応募があった。引き続き積極的なPRと共に、予算の確保も必要になる。																								